

「知床の森を守り育てるエコロジカル体験ツアー」の実施結果について

「知床永久の森林づくり協議会」の初の試みとして、関東圏の方々を参加対象とした森林体験ツアーを以下のとおり実施しました。

【開催日程】 平成20年9月26日(金)～28日(日)

【参加者】 関東圏在住の17名

(年齢層 : 10代1名、20代1名、30代4名、40代5名、50代1名、
60代3名、70代2名)

(男女別 : 女性→11名、男性6名)

【主なプログラム】

1日目: 東京農業大学オホーツクキャンパスでの講座

「オホーツク学入門」 (東京農業大学 黒瀧教授)

「エゾシカとの環境共生」(東京農業大学 北原専任研究員)

知床自然センター見学、知床五湖散策

ネイチャーガイドが語る「知床の魅力」((株)知床ネイチャーオフィス 松田氏)

ナイトウォッチング (")

2日目: カラフトマスの遡上見学 (オンネベツ川)

森林のつどい2008「育樹祭」に参加 (トドマツ人工林の間伐作業体験)

樹木医と歩く知床の森林 (トレッキング)

「網走語り部の会」講師によるお話、鹿肉料理、交流会

3日目: 旭山動物園での講座

「北海道の森林環境と食物連鎖」(旭山動物園 坂東副園長)



(東京農大での講座)



(知床五湖の散策)



(ナイトウォッチング)



(知床国有林での間伐作業)



(樹木医と歩く知床の森林)



(旭山動物園での講座)

【参加者からの主な意見】 ※アンケートから抜粋

（東京農大での講座）

- ・ オホーツクについての情報がよくわかった。その後の風景の見方が変わった。
- ・ 東京農大の商品開発に絡めたオホーツク学が面白く、一般人にも理解しやすい内容だった。
- ・ エゾシカと森・木の関係がよくわかり、普段ニュースで聞く事柄の原因とつながりが理解できた。
- ・ 人間の身勝手が自然のバランスを崩していることがよく分かった。

（ネイチャーガイドが語る「知床の魅力」、ナイトウォッチング）

- ・ 地元の方の話は説得力がある上、話も面白く工夫されていて身につく内容だった。
- ・ 動物と人間は一緒に地球に暮らしているのだということをひしひしと感じた。

（育樹祭での間伐作業）

- ・ プログラム中で一番楽しかった。木を育てるためには植林だけではないのだと初めて知った。
- ・ 間伐の意味を理解した。森林を守るという意識付けと活動自体はカーボンオフセットより具体性があり、お金で相殺という罪悪感も持ちにくいと感じた。
- ・ 自ら体験できてとても満足、やりたい人はたくさんいるのではないかな。

（樹木医と歩く知床の森林）

- ・ 今までは森林を歩いても、木々をひとつずつじっくり見ず、全体で捉えていたが、木々の菌類の話を実際に目で見ることによって、森林ウォークの楽しさを再発見できた。
- ・ とても興味深かった。頭ではなく、体・感覚で生態系のつながりを感じられた。

（旭山動物園での講座）

- ・ 野生動物の生態系を崩さないよう人間も考えていくべきだと改めて考えさせられた。
- ・ ペット志向で動物を見がちな現代の風潮が環境を壊していることなど、新しい視点で動物との共存を考えることができた。